

音楽と私

アゼリア合奏団inシニア 津川 博保

デイサービスに向かうご老人が送迎バスの中から手を振っています。出前演奏したことのある施設の方々です。かく言う私もそろそろ傘寿を迎える爺なのです。身体中故障だらけですが、既に償却済みの身、残りの人生を利益と考え、音楽を楽しんでいる昨今です。

私が初めてヴァイオリンを手にしたのは、小学4年の時でした。親父のパワハラによりヴァイオリン教室に通わされたのです。悪ガキが力道山や古橋選手に憧れていた時代です。ですからヴァイオリンを止める迄の3年間は肩身の狭い思いをしたものです。その後、大学の管弦楽部に2年間程所属しましたが、蟻のように働いていた現役時代には全くヴァイオリンには触れていませんでした。定年退職後のある日のこと既にギリギリになっていた学生時代の仲間から弦楽アンサンブルへの誘いがあったのです。中途半端で止めたヴァイオリンのことがずうっと引っかかっていたので少し心が動きました。埃まみれのケースからヴァイオリンを取り出して見ると何やらカラカラと音がするのです。魂柱の転がる音でした。ヴァイオリンの裏板が剥がれて魂柱が倒れていたのです。膠で裏板を貼り、数日後に魂柱を立て直し、弦を貼りました。弦を張っていくうちに眠っていたヴァイオリンへの思いがムクムク起き上がってきたのです。この時私は66歳でしたが、定年直後にギリギリ化した仲間達はかなりの腕前でした。彼らに追いつくために近くのヴァイオリン教室に通い始めましたが、これがその後の音楽活動の原点となったのです。



68歳（2007年）の時、現役時代の先輩の誘いでアンサンブルシーガル横浜に入会し、ここで初めて鍋木先生に出逢いました。73歳（2012年）でアゼリア合奏団inシニアを立ち上げ79歳（2018年）の現在まで先生のお世話になっております。歳のせいかわ、最近をよく音楽について考えるようになりました。“音楽とは何か”、“音楽は何のためにあるのか”などです。そうすると、音楽にはとてつもなく大きな力が潜んでいることに気づきます。私の周りで色々な事が起こっていることに気づくのです。酒も煙草も止め音楽一筋に絞り長生きを図る者、脳梗塞を克服して音楽を

楽しむ者、数回の手術に耐えながらも合奏に参加してついに難病から立ち直った者、等々と数知れませんが、変わったところでは、休眠状態の店舗や工場を防音化して音楽室にしようというチェリストで建築士との出会いや音楽療法士からのコラボ依頼などがあります。毎年約60回の出前演奏をしておりますが、アマチュアの演奏でも感動を与えることができるようです。これは、甲子園の高校野球のようなものだと思うのです。最近では、弊楽団にも“追っかけ”なる者が数人現われております。

小・中・高・大学それに会社で大勢の仲間を得ましたが、今また音楽を通じて素晴らしい仲間と出逢い、音楽から命を貰って人生が変わるのを楽しんでおります。ヴァイオリンを弾く時は常に生涯最高の音を出そうという心意気で演奏している次第です。